

所は、まつたく唱ふる所と異なつてゐる。白晝公々然と他人の通行を妨害するのみか、第十七工場工員の如きは途上捕へられて殴打され鼻血を出すといふ仕末である。大變な現實政策があつたものである。危険極まる「方向轉換」である。

先日の演説會に於て某幹部は「我々は今は、いはば、羊の群である、然し乍ら、一度、怒れば忽ち獅子となり狼となるばかりだ」と放言した相であるが、羊と稱する、今の時に於てすら、既にかくの如し。是明に町に對する威嚇であり脅威である。町民は刮目して、彼等の行動を監視すべきである。まことに奇怪、不可思議なるは野田支部の現實主義である。

野田一町民

◎危険なる羊の群

總同盟が所謂「方向轉換の宣言」をしてから極左労働運動から脱して、現實主義に立脚する運動に着手した事は、たしかに特筆すべき事柄であつた。野田に於ても、少くとも口に唱ふる所文は、大正十二年當時とは、大分異なつて來た。

吾々は、先年のストライキに於て、工員諸君の狂暴な行動を見せつけられて恐怖に襲はれたのであるが、この變化を見て衷心から喜んだ、そしてかくの如くなつたからには、猥りにストライキなどはしまし、又たとへば、やるにしても、その出所進退は、嗚かして正々堂々たるもの秩序整然たるものである。ろうご想像して居つた。折から今回の問題が勃發したのである。

總同盟野田支部は、かくて、町民監視の裡に、火蓋を切つたのであるが事實は如何！ 彼等の行ふ